

武蔵野市第六期長期計画策定委員会
圏域別市民意見交換会（境）

日 時：令和元年6月22日（土） 午後1時30分～午後3時38分

場 所：市民会館集会室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、栗原委員、中村委員、保井委員、松田委員、笹井委員、恩田委員

事務局が、計画案、意見交換会の進行及び今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換がなされた。

【市民A】 図表の左右の位置が各章でバラバラなので、そろえたほうがいい。

4「市政を取り巻く状況について」の（3）の①「財政の現状と課題」は、グラフに番号を入れて、本文も番号を指定して説明したほうがいい。

9「財政計画」の図表6の経常収支比率推移は、素人では何を意味しているかわからない。用語説明には、90%を超えると硬直化するからよくないと書いてあるが、例えば図表6の上限を90.0%とするのではなく、もう少し上まで書いて、どこからが安全な範囲だということが、見てすぐわかるようにしたらいいのではないか。

4「市政を取り巻く状況」の（3）の①のグラフ「財政力指数の推移」も、この数字が一体何なのかがわからない。順位の意味もわかるようにしてほしい。

「参考」の長期財政シミュレーションは、第五期長期計画・調整計画においても、お金が足りないということを示していた図だ。第五期長期計画・調整計画では、令和27（2045、H57）年に369億円の財政不足になるという予測だった。今は全く違う図になっている。ところが、結論の「持続可能な財政運営を」というところは第五期長期計画・調整計画と同じだ。つまり、ここで大事なものは、141億円足りなくなるという数字ではなく、傾向だ。こう無くなっていくのだということがわかれば、市民も納得する。

【A委員】 図表は、ご指摘のとおり工夫して修正する。

財政力指数の順位の意味に関しては、悩ましい。武蔵野市の順位はとてつもなく、すごい数字だ。

【市民A】 それが伝わってこない。

【A委員】 791 市中4位のすごさが伝わらないということであれば、再度考える。

財政力指数は、一般的には財政の余力を見る数字としてよく使われる。これが1.5というのは、小さな町村で原子力発電所のような巨大な固定資産を抱え、そこからの固定資産などの税収が入る自治体の数字に等しい。この数字を武蔵野市は主に住民税と固定資産税によって達成できている。それを伝えるために、私が順位を書いてほしいとお願いした。

財政シミュレーションで示したかったのは、第五期長期計画・調整計画時と比較し財政余力が増しており、積極財政に踏み込めるということだ。ただ、シミュレーションは、前提の置き方次第でいかようにも変わり、現在余力があったとしても将来は決して安泰ではないということを伝えなかった。

【市民B】 平和・文化・市民生活分野の基本施策4の(1)「市民同士の語らいや連携による豊かな地域社会の進展」、第1段落の3行目に「語らう機会の創出」とあるが、これを「語らい学びあう機会の創出」としていただきたい。理由は、コミュニティづくりには市民の学び合いが必須だからだ。そのためにコミュニティ未来塾むさしのができた。この学び合いの意義を明記してほしい。

また、基本施策6の第2段落の2行目、「参加と学び」は何への参加かわからない。ここは、市政や地域活動への参加と学びが循環的に発展するという趣旨だと思うので、参加の中身を具体的に入れて、「市政や地域活動への参加と学び」にしてほしい。

同じく基本施策6の(1)「生涯のライフステージを通じた学習活動の充実」の第3段落の1行目の「学びの成果を地域での共有」の後に「・活用」を入れて、「学びの成果を地域での共有・活用」としていただきたい。学習成果の地域活用は国の政策でも重視されている。

さらに、同項の第4段落に「社会教育施設など」とあるのを「市民会館等の社会教育施設など」にしてほしい。「社会教育施設」だけでは何を指しているのかわからない。市民会館を社会教育施設の代表的な施設として例示し、用語説明で「社会教育施設とは、市民会館、図書館、ふるさと歴史館などを指す」としていただきたい。

最後に、4月26日の策定委員会の時点では、基本施策6に「生涯学習と学校教育のボーダーレスな連携」という一文が入っていた。そのため私は、これは語彙矛盾であり、生涯学習という言葉を「社会教育」あるいは「市民の学習活動」に変えるべきだという傍聴者意見を出した。その結果、今回の

計画案では「生涯学習と学校教育のボーダーレスな連携」そのものが削除された。実は、第五期長期計画・調整計画のパブリックコメントでもこれと同じやりとりがあった。「生涯学習と学校教育の連携」を「社会教育と学校教育の連携」に変えるべきという意見を出すと、なぜもとの案の「生涯学習と学校教育の連携」自体を削除するのか。しかも、第五期長期計画・調整計画と第六期長期計画の二期にわたって、なぜ同じ反応になるのか。

【B委員】 語句の修正に関するご意見については、策定委員会で検討させていただきたい。

最後の点については、学校教育に関することとして子ども・教育分野の基本施策5に入れたために、平和・文化・市民生活分野の基本施策6から削除した。

【企画調整課長】 第五期長期計画・調整計画との兼ね合いについては、事実関係を確認し、策定委員と共有する。

【市民B】 今、国の計画では、地域学校協働活動は、むしろ社会教育の生涯学習政策としている。学校と地域が一緒になって子どもを育てるというのは、学校教育だけでなく、生涯学習の面からも必要なことだ。これは4月26日策定委員会での素案 Ver.1でも同じように書かれていた。生涯学習のほうで書いたものだけが削られることに違和感がある。

【C委員】 今のご意見はもっともに思う。もとに戻せばいいのではないか。

【市民B】 もともと生涯学習に載っていた一文が語彙矛盾をしていたために修正を提案したら、もとの文が削除になった。もとの文を入れていただくのもいいが、武蔵野市として「社会教育」を使いたくないというのであれば、「市民の学習活動」でもいいということも意見に書いた。

【委員長】 確認をしつつ検討したい。

【市民C】 吉祥寺駅を出た人たちが真っ先に見るポイントに、ラブホテルの看板が立てられている。あの現状は、景観としても、吉祥寺の魅力、認識という点においても非常に悪影響だ。どう対策をとっていくのか。

【D委員】 屋外広告物、看板等は、景観のガイドラインをつくり、今後つくられるものに対しては誘導等の対策を実施している。既存の広告物についても、地域の方々と協議しながら、対策を行うスキームをつくる検討はしているが、規制でこれを取り締まるには難しい部分がある。

【市民D】 3「これまでの実績と評価」の⑤「都市基盤」には、「これまでに、まちづくり条例において地区まちづくりに関する諸制度を創設してき

たが、十分に活用されていない状況である」とあるが、西久保には地区まちづくりの事例がある。できていないところがあることは率直に言っていた方がいいが、西久保の人たちは一生懸命やってきたので、それが成果として書かれないのは寂しい。

都市基盤の基本施策2の(3)「魅力的な都市景観の保全と展開」の2行目に「景観まちづくりに関する講座やワークショップを継続し」とあるが、「景観まちづくりの手引」が市民向けの手引きとしてつくられている。景観に対する市民の意識を高めるという意味でも、具体的な事例として手引きをつくったことを書いてほしい。

都市基盤の基本施策1〔道路分野〕の(2)には「市民と行政との協働」とあるが、基本施策1の(1)「地域主体のまちづくりへの支援」には、パブリックスペースを活用したいということが書かれている。歩道を含めてパブリックスペースとしての道路の有効活用が考えられると書いてほしい。

基本施策6の(1)「吉祥寺駅周辺」の②「エリア特性を活かしたまちづくりの推進」で、「イーストエリアについては」から始まる段落は、環境浄化のことか。「これまでの地域の取り組みを踏まえ」がよくわからない。「利活用や整備の方向性を定め、事業化に向けた検討を進める」も、何の事業化を進めるための検討か、自転車駐車場に関するものなのか、あるいは、もっと大きな地域の取り組みを踏まえたものなのかがわからない。

【E委員】 3「これまでの実績と評価」の⑤「都市基盤」の地区まちづくりの事例については、ご指摘のとおりなので、追記するよう検討する。景観ガイドラインの活用についても同様である。イーストエリアの記載については市民に伝わるよう、記載を検討させていただきたい。

【市民E】 先日、年に一回の教職員組合の集まりがあった。勤務時間外だったが、せっかくの機会であるので、この計画案をコピーして、参加した教員に配付し、意見を集約した。

まず、子ども・教育分野の基本施策4について。武蔵野市民科を教育課程に位置づけることに教員たちは批判的な意見を持ち、また懸念している。4月に学校に対する説明会が開かれたが、「やらなければならない」という説明であったので、教員たちは抵抗感があったようだ。子どもたちにとって必要だからという理由であってほしい。もとは、第五中学校の一部の先生の独自の取り組みだった。それが、市民性を高める教育として教育計画に位置づけられ、カリキュラムと中学校区ごとの指導計画を2年以内につくらなければならないとなると、「また仕事が増える」という負担感しかない。教員の

コンセンサスが得られないまま、見切り発車的にこの第六期長期計画に武蔵野市民科という言葉だけが入ると、それはただの押しつけになってしまう。

また、「武蔵野市民科と関連が深いセカンドスクール」と書いてあるが、武蔵野市民科とセカンドスクールは別に関連が深いわけではない。

来年度から武蔵野市は夏休みが短縮され、8月27日までになると聞いている。夏休みは、子どもたちがしっかり休み、先生たちも勉強したり、ジャンボリーに参加するなどのために必要な期間だ。夏休みが短縮されたら、武蔵野市の教育は、つまらないものになってしまうと懸念している。

最後に、武蔵野市小中一貫教育あり方懇談会の報告書にある、施設一体型小中一貫校を義務教育期間外にしないという結論が3「これまでの実績と評価」の②子ども・教育の部分から抜けている。この理由は何か。

【副委員長】 武蔵野市民科は、第六期長期計画で唐突に出てきたものではない。武蔵野市民科に関する検討委員会等で議論がなされている。策定委員会としては、武蔵野市民科という新しい取り組みを現場の先生方をお願いすることで、負担が増すことになるのは承知しているが、同時に、学校教育の中でも市民性を涵養していく部分が重要であるという問題意識も持っている。

「関連が深いセカンドスクール」は、ご指摘のとおりで、見直しを前提に表現等を検討する。

夏休み短縮という議論が出ていることは、私はまだ承知していなかったので把握しておきたい。

小中一貫教育に関することは、計画本文に書かれることはないが、「これまでの実績と評価」には私は書いてもいいと思うので、持ち帰り、検討する。

【F委員】 夏休みの短縮については、新しい教育課程になり、授業時間数が増えるという国の流れの中、武蔵野市としてどうしていくかが校長会で議論された。現状では、①振替のない土曜日に開講する、②7時間目を増やす、③夏休みを3日間程度短縮するの3案が出されている。本年7月の定例教育委員会で決定し、その内容を保護者及び市民の皆さんにお知らせする予定である。

【市民F】 インクルーシブ教育を推進していただきたい。また、障害のある子が、家族の負担を前提とせずに好きな進路、子どもにとって一番いいと思う進路を選べるようにしてほしい。

インクルーシブ教育や特別支援教育については、子ども・教育分野の基本施策4の(5)「一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実」に記載があるが、討議要綱から表現が変わっている。この課題認識と、表現を

変えられた意図を教えてほしい。

【副委員長】 討議要綱の記述は、抜本的に見直した。いただいた市民意見から、実態に問題があったのではないかとということと、インクルーシブ教育の理念を明確に打ち出す必要性があると考えたためだ。ただ、インクルーシブ教育を行ううえで、完全に障害がある子どもも、ない子どもも、全てを同じ学級で行うことは難しい現状がある。そのため、個別ニーズに特化して対応していくという部分と、インクルーシブに子どもたちがしっかり時間を過ごしていく部分の両方をできるだけ行っていくということを書いている。

【市民F】 今の説明は、インクルーシブ教育は特別支援学級や特別支援学校に隔離することを前提にしている。それはインクルーシブ教育という言葉のそもそもの意味と異なるのではないか。

【副委員長】 インクルーシブ教育の理念は、用語説明の 37「インクルーシブ教育システム」の項にあるとおりだ。同じ場で、ともに学ぶことの追求という部分と、一人ひとりの教育的ニーズに応えるという部分がある。ただ、一般学級で全ての子どもを教えるのは、リソース的に難しい。また、個別ニーズへの対応等も難しい。これらを踏まえて、特別支援学級とインクルーシブ教育の理念をできるだけ両立させることを目指すが、同じ場でともに学ぶことの追求という側面のみを行うとすれば、武蔵野市はそれを考えていないというのが現状だ。

【市民F】 「インクルーシブ教育」と書いてはみたものの、実際には難しそうなので、表現が変えられてしまったというのが残念でならない。実態として難しいというだけなら、何も変わらない。討議要綱に「インクルーシブ教育」等の言葉が入っていることに希望を持ったが、結局は今の実態から何も変えるつもりがないということがよくわかった。

【副委員長】 残念に思われたのは、我々としても残念だが、これが実態だと認識している。私自身は、特別支援学級をいきなり全て廃止してしまうのは現実的には難しいと思っている。教員側にノウハウがないし、教員を支援する体制も十分ではない。また、児童発達支援センター等これから増えてくる専門的な部分と連携することで、例えばクラスが上がるごとにお母さんが、違う教員に同じ説明をしなければいけないということがなくなる。学校側に対するバックアップや、教員に対する支援も積極的にしていくことで、インクルーシブの理念に近い体制をとっていけるようになる。それが現実的であると考える。

【市民G】 子ども・教育分野について。討議要綱の段階では、小中一貫の

経過を附属資料等に残そうという議論があったと記憶しているが、今回それが全く消えてしまった。3「これまでの実績と評価」の(2)の②子ども・教育に1行入れて、後段で、参考資料として、検討委員会の経過を載せられないか。

行・財政分野の基本施策4の(6)は、討議要綱の「財政援助出資団体の統合と自立化」から「財政援助出資団体の経営改革等の支援」に変わり、趣旨にふさわしいものになった。ただ、「効率的な団体運営のため、経営改革等を支援し、適切な評価と指導・監督を行い」の後に続く「各団体の状況に応じた形での自立化を促進する」を結論にしてしまっているところに疑問が残る。そもそも「各団体の状況に応じた形での自立化」とは何なのか。市からの財政援助を前提としていても、「自立化」というのか。

基本施策5の(1)「課題に的確に対応できる人材の確保と育成の強化」に一般技術職、専門職が挙げられている。私は、保育園の保育士のことが気になっている。武蔵野市では、公立保育園の保育士の採用がなくなって10年近くになる。武蔵野市は、公立保育園を中心に保育士人材の質が高まり、その人たちが園長になって、市政の重要な子ども施策の部分を担うようになったと私は理解している。今、その人材が枯渇しかけている。子ども協会あるいは市の一般職の方たちだけで足りるのか。専門職の位置づけに保育士を加えるべきだ。

9「財政計画」の参考「長期財政シミュレーションについて」の図は、悲観シナリオか、楽観シナリオなのか、中立シナリオなのかがわからない。公共施設の更新を現在と同じ水準で進めた場合という前提は、例えば1つの学校を何十億円で改修するという単純計算のシミュレーションで示したほうが、市民にわかりやすい。前提と結論を四角で囲って、その中に30年後には「不足する」と書かれると、その部分だけがひとり歩きして、様々な政策の検討を狭めることになる。

【A委員】 財政援助出資団体は、民間事業者に今すぐ切りかえることができない、いわゆる低収益な事業を行う団体で、市からの一定の財政支援が入るという前提でないと、団体の維持が難しいと認識している。これが不効率であるのであれば、他の事業者への切り替えも選択肢としてあり得る。市は今、発注のスキームを検討している。ここで記載している自立化には、業務効率化の自助努力をしてほしいというメッセージを込めたが、言葉足らずのところは、対案をいただくとありがたい。

人材確保の件について。市が保育士を育ててきたこと、その人材が枯渇しつつあることは、今まで議論をしてこなかったもので、策定委員会で実態の確

認をして、表現について考えたい。

財政シミュレーションは、シミュレーションを必ず出してほしいという市議会議員の意見を反映した。長期でシミュレーションをかけると、どうにでも変動し精度が上がらないため、シナリオも、悲観か楽観かではなく、今一番確からしい情報を用いて作成した。武蔵野市の財政は、ほかの市町村に比べて圧倒的にゆとりがあり、将来に対して過度に不安になる必要はないのだから、必要なものには積極的に踏み込むが、財政規律は持たなくてはならないということを強く示している。4月の市長との意見交換でも深く議論をしている。

【市民H】 最近の武蔵境駅周辺は、整備が進んで、コンビニが増え、B級グルメ、パチンコ店が建ち並び、随分とさま変わりした。さらに、市の顔とも言える駅の広場に隣接して、広い駐車場を持つパチンコ店とスーパーが併設された施設の建設が始まる。ここは幼稚園や保育所の近所にパチンコ店をつくってはいけないという規制をうまく避けた形をとっていると聞く。このような工事を周辺地域の人には誰も望んでいない。これは地権者だけがおいしい話だ。志のない地権者によって、まちの雰囲気壊されていくのは、本当に悲しく、残念だ。また、パチンコ店ができることは、ほとんど決まってから知った。市民の声を届ける機会はどこにもなかった。市民はどこで声を出したらいいのかということ、どこかに盛り込んでほしい。

【E委員】 市議の方々との意見交換でも、パチンコ店に関する話は出ていた。まちのにぎわいづくりをする中で、建築物や屋外広告等が規制や法律の範囲内であるとしても、地域の人には望んでいないということがある。このような問題に対しては、吉祥寺の環境浄化のように地域の方々と一緒になって未然に防ぐようなことを重点的にやっていくしかないと認識している。その後、市レベルで対策を考えていくということはあるが、当面はそのような対応になると思われる。そういった内容を、現段階では「賑わいづくり」あるいは「駅周辺エリアの魅力を向上・発展させるための取り組みについて検討する」としているが、もう少し言葉を足したほうが良いということであれば、策定委員会に持ち帰り検討する。

【D委員】 市では、まちづくり条例における建築の手続の中で意見を出したり、委員会が仲裁に入って、市民と事業者とが協議調整する場を持っている。どこかで妥協点を見つけるための調整をしているものである。問題を顕在化させて、調整を行うシステムはつくっているが、今回のような現実があるという状況だ。

【市民H】 町内会の方々は事業者の話を知ったようだが、私は後日知った。駅前の施設は公共性も高い。市民の武蔵境という意味で、話を聞ける対象の枠を広げてほしかった。

【G委員】 住民の方が納得できるまちの形に変えられるかどうかは、事前の話し合い次第だ。例えばパチンコ店が建つのであれば、周辺の方たちに広くメッセージを発信して、多くの人に集まってもらい、話し合いをするという仕組みは、今つくられているのか。つくられていないのであれば、今後、そういうものをつくっていくことが必要になるのではないか。

【D委員】 景観の周知には、事業者の責務が存在する。条例に基づいて、その建物の計画を公告しなければいけないので、現地に看板を立てて、こういう施設ができるという周知をする。

意見書や調整会の請求は、最も影響を受ける、建築物の高さの2倍の範囲の住民が出せるということが紛争予防条例で定義されている。

地区計画を考えるうえでは、様々なシステムがあり、例えば、土地の権利者と一緒に、こういうまちをこのエリアにつくろうとする自主活動という手法もある。

【委員長】 気持ちは私もよくわかる。ただ、民間事業者に、必要以上に規制をかけることにもなる。また、対象がパチンコ店だから問題になっているのであって、これがみんなにとっていいものであれば、文句は出ない。そこをどう考えていけばいいのかということを考えさせられた。

【市民I】 子ども・教育分野の基本施策2の(3)「地域子ども館事業の充実」の第2段落の3行目に、学童クラブについて「4年生以上の受け入れについては、学校長期休業中の一時育成事業について検討を進める」と書かれている。これは保護者が望んでいたことなので、書いていただいたことに感謝するが、長期計画という視点で見ると、少し残念な気持ちもある。6年生まで入れたら安心できるのと思う保護者はたくさんいる。厚生労働省の指針等には、6年生まで受け入れるようになっていたと思う。これとの関係を聞きたい。なぜ武蔵野市は4年生以上の受け入れが長期休業からなのか、検討はするが、こう書いているということか。

【副委員長】 学童クラブの受け入れについては、現在、桜堤が典型ではあるが、完全にキャパシティオーバーを起こしており、隣接地の整備や安全な移動の確保を考えると、受け入れ枠を今すぐ広げることは難しい状況にある。可能であれば、先ほどの指針を踏まえ拡充していくが、安全かつ質が高くなければ意味がないので、今はこのような書き方になっている。

【市民Ⅰ】 この文章は、これだけで終わってしまうように読めてしまう。未来のことも含めた表現にしていきたい。

【副委員長】 「整備を行う」は、整備していないから行うということで、全般として今後もっと取り組んでいくということを書いたつもりだ。実行面は子どもプラン等で考えていくことになる。

【H委員】 国は今、全世代型社会保障制度への転換を進めており、消費税の増税を含めて、特に子育て世代に対する支援を社会保障政策として進めている。生産年齢人口が減る中であって、女性の一層の社会進出を進めていくためにも、政府は子育て支援策を重要な社会基盤として整備していく。武蔵野市も、その流れの中で展開していくことになるのではないか。

【市民J】 施設一体型小中一貫教育の経過についての記述が、結論ありきだ。経過の部分の記述をお願いしたい。

都市基盤分野の基本施策4の(1)「生活道路への安全対策」を詳しく書き込んでいただいたことに感謝している。「通学路をはじめとした歩行者の」という記述も、踏み込んで書かれている。ただ、「警察などの関係機関や市民と連携し」の後が「交通規制や交通ルール、マナーの向上等を図るとともに」と流れてしまっている。討議要綱についての意見交換会でも申し上げたとおり、「交通規制や交通ルール」に「遵守」という言葉をどこかに入れていただきたい。

(2)「都市計画道路・ネットワーク整備の推進」で、女子大通りについて「より一層丁寧な説明を行うとともに、確実な事業着手を東京都へ要請していく」と書かれている。地域としても、具体的な説明がなされる機会を望んでいる。

平和・文化・市民生活分野の基本施策5の(1)「文化振興基本方針に基づく文化施策の推進」の3行目「方針の共有・浸透、振り返りのための体制をつくり」は、もう少し踏み込んだ、具体的なイメージが欲しい。また、「これからの文化施設が担うべき役割や機能等」の具体的な検討内容の記述が欲しい。

【副委員長】 小中一貫教育の経過について、討議要綱では書いているが、今回、完全に落ちてしまった。3「これまでの実績と評価」の実績の部分で書くことができないかというご意見もいただいているので、検討を進めたい。

【市民J】 これは、ここ数年間、教育委員会で地道に検討してきたことだ。3「これまでの実績と評価」の中でいいので、時系列の記述が欲しい。

【E委員】 都市基盤分野の基本施策4「生活道路への安全対策」の文章に

「遵守」を入れるという方向は、私自身、腑に落ちたところがあるので、持ち帰らせていただきたい。

女子大通りは、様々なご意見をいただいた。委員会でも、その必要性とともに、今後の対応について、より丁寧に取り組んでいくと書いた。それがしっかりと実践されるようにしていく。

【B委員】 平和・文化・市民生活分野の記述は、実際に進めているところと相談のうえ、書けることについて検討する。

【A委員】 「遵守」を書くべきというのは私も同じ思いだ。引き続き、E委員や事務局と相談しながら考えたい。

【D委員】 文化振興基本方針については、今年度に文化施設のあり方を検討する会議体をつくる予定である。そのうえで、各施設、各機能、どのようなものが今後求められるのか、必要なかを議論していく。

【市民K】 インクルーシブ教育の件についての記述に感謝している。いろいろ考えてくれたことが感じ取れる。武蔵野市で生きていくことを楽しみながら、まちをよくしていくことに自分の力も注げる形を探すには、計画案のどこを見たらいいのかと考えながらページをめくった。私は活字を読むのが苦手だが、これは読んでいきたいと思ったし、話を聞きたいと思い、今日この場に足を運んだ。計画の記載内容を気にかけることで、アンテナを張り、「近所の公園が変わるらしい。説明会があるから行こう」と声をかけ合うことができる。また、そういうことを通して関係を密にしていける。まちを「気にかける」ことにつながる表現が欲しい。

【委員長】 難しいご意見だが、おっしゃることは非常によくわかる。この長期計画の中でそれをどう反映すればいいのか。単純にコミュニティという話でもないし、情報という話でもない。

【市民K】 市民が生活していて、気になるところ、例えば大規模パチンコ店が新しくできるということや、公園、道路など、なぜこうなるのかと質問したことに答えをもらえるのは大変いいことだ。また、それを伝え合う人間関係ができる。ただ、市民が忙しく動き始めてしまうと、お互いに耳を傾けることが減り、情報の発信の仕方、受け方も変わる。

【委員長】 今のコミュニティセンターでのかかわりだと、そのような意見交換や、人間関係をつくることが上手にできないということか。

【市民K】 自分の得ばかりを追って、嫌なものはとにかく排除するという傾向がますます強くなっているようだ。無償の活動をうまくまとめていくという考え方では不十分になってきている。今まで60～80代の人たちは、主

婦をしながら、地域を豊かにしていくため、子どもの登下校や放課後保育などについて、考え、議論をしてきた。今は、誰もが忙しく、地域のことを一緒に考える時間をつくるのが難しくなっている。

インクルーシブ教育について考えてくださっていることは読み取れるが、違うと思うという意見が出てくるのは、うまく伝えられていない部分があるからではないか。そういう意味でも、自分たちが勉強できる場が欲しい。

女性が社会に進出して、地域で面倒を見るオバサンたちが減り、いずれは皆無になる。このオバサンたちがいないということは、市内各所でパートさんが減るということだ。しかし、今はオバサンありきで話が進められている。

【A委員】 市民参加と担い手に関するご意見であり、行・財政分野で検討するべきだろう。今回、私は、策定委員として、地域の愛着や誇りが重要だということを第六期長期計画の文面に出していきたいと考えていたのだが、国土交通省でもよく使う「シビックプライド」という言葉に引っ張られて、少し違った方向になってしまった。重要なのは、「武蔵野市ってすごいよね」と、外の人に人気があることだけではなく、市民が「武蔵野市って、俺たちのまちって、すごいよね」と言えることだ。今まで自然発生的に出て来たものを、意図的につくらなければいけない。そのようなものを、第六期長期計画で位置づけなくてはならない。事務局とも相談のうえ、愛着についての表現を考える。

加えて、ICTがあるとコミュニティのあり方も随分変わる。今までの新しいコミュニティとアナログのコミュニティをどう使い分け、融合していくか、難しい課題はあるが、それを書けるのが長期計画だ。いただいた意見は預らせていただき、頑張りますという宣言をしたい。

【H委員】 健康・福祉分野の基本施策1の(3)「地域共生社会の実現に向けた取り組み」に、「国では、今後目指すべきイメージとして、地域のすべての関係者が我が事として参画し、生活課題に丸ごと対応できる社会を提示し、地域共生社会の実現を目標とした。この考え方は、武蔵野市第五期長期計画の重点施策である『地域リハビリテーション』の基本理念と共通点が見られるものであり、すでに各個別計画において武蔵野市における地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めてきたところである。」と書いている。地域の魅力をどう発信するか、また、それをICTでどう広めていくかということは重要だし、地域のオバサン的な機能は、地域の中で起こることをみんなが我が事として考えていこうというものである。その対象は道路や景観、子ども、教育も含まれ、そうした問題を地域の中で丸ごとみんなを抱えていこうという地域共生社会の考え方を、ここに盛り込んだつもりである。地域

の人たちが地域のことを考え、我が事のように支え合っていくのが本来の地域社会のあり方であり、武蔵野市がこれまで培ってきた自治の考え方でもある。地域の中でみんなが支え合っていくという考え方が大事だということを経済中期計画でも受けとめさせていただきたい。

【市民L】 子ども・教育の基本施策1の(2)「それぞれの環境に応じたきめ細やかな子ども・子育て家庭への支援」の本文の冒頭に「子どもの将来が貧困等の環境要因に左右されることがないように」とある。子どもは社会全体で育てていくことが大切だ。武蔵野市よりのよさ、すばらしさについての意見は出されるが、子どもの相対的貧困は、なかなか見えない。見えないところを見えるようにしつつ、どこの子が貧困だと特定されないように、きめ細かな支援も必要だ。基本施策2の(2)「希望する保育施設に入所できる施策等の推進と保育の質の確保・向上」に保育所定員率の推移のグラフがあるが、相対的貧困率などの数値化されたものがない。「まなこ」の96号には、平成25年度の全国、東京都、武蔵野市の就学支援の数字が出ている。市民が子どもの支援についてわかるようにするには、数値化したものを中期計画の文面に上げることが大切だ。

世間では、子ども食堂が注目されているが、どこまで必要かという意見もある。必要性を感じられるようなデータを計画の中に1つでも入れてほしい。

【副委員長】 貧困問題は、ただのイメージの問題ではなく、実態としてあるということ、使用する数字についても十分考慮しながら、積極的に示していきたい。ミクロなレベルで見える化は、いじめの対象をつくることにつながりやすいため、マクロなレベルで見える化をすることが大事だ。そうした対応をしている中で、子ども食堂は必ずしも貧困とは限らず、ネットワークづくりでもあるので、書き方の修正については検討したい。

【市民D】 9「財政計画」の72ページの図表7「歳入の実績」に「市民税」とある。これは「市税」ではないか。

都市基盤の基本施策6の(3)「武蔵境駅周辺」は、吉祥寺と三鷹に比べて、書くことがないのかと思わせるような文章だ。北口についての記述も、「都市基盤整備について一定の完了を迎えた」という表現になっているが、ここは、これからどうするかを書いたほうが良い。3「これまでの実績と評価」の(2)「第五期長期計画・調整計画(平成28(2016)年度～)の実績と評価の概要」の⑤「都市基盤」の記載でいいのではないか。武蔵境周辺の都市基盤整備自体は完成したわけではない。一定の事業が終わったという

だけで、課題はまだ残っている。

都市基盤の基本施策6の(3)に「引き続き、武蔵境駅北口の区画道路や天文台通り等」と、市施工の都市計画道路3・4・27号線が「等」でくくられている。この路線は、短いながら、都市計画決定されながら、実は変更するという非常にまれな事例になるところだ。武蔵境の南口から南に、歴史的な遺産である観音院とプレイスの間を通る部分と、境南ふれあい広場とが一体的に整備されることで、すぐれた公共空間と南口の魅力をつくるという意味でも重要な道路だ。表現を見直していただきたい。

【E委員】 確かに、「一定の完了を迎えた」等、終わった話のような形になっている。本来は整備した後の管理運営、賑わいについて書く形だと思うが、記載について検討させていただく。

プレイス横の市道については、私は把握していなかった。第六期長期計画にどこまで書けるのか、確認しながら検討する。

【市民B】 生涯学習と学校教育の連携は、もともと伝統芸能等特技を持つ団体や方々が、学校教育において授業や特別活動で子どもたちとともに活動するようなことが広がってほしいという趣旨で書かれたのだと思う。私が出した意見を反映して、削ってしまうのはもったいない。子ども・教育分野の基本施策5の(3)「学校と地域との協働体制の充実」は、運営体制での協働をイメージして、授業や特別活動に住民が協力しながら子どもたちとともに学んでいくということが入れればいいのではないか。あるいは、もとの「生涯学習と学校教育の連携」のほうが、行政としても市民にイメージを伝えやすいというのであれば、それでもいい。地域住民が協力して、学校教育の中身がさらに広がっていくということが出るようにしていただきたい。

インクルーシブ教育については、修正したほうがいいのかという点が4つある。

まず、子ども・教育の基本施策4の(5)「一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実」は、文章が特別支援教育と特別支援学級のことだけになっているが、大事なことは、普通級における特別支援教育も含めて一人ひとりの教育ニーズを吸い上げることだ。したがって、この「一人ひとりの教育的ニーズに応じた」を本文の冒頭に持っていき、「一人ひとりの教育的ニーズに応じたインクルーシブ教育システム」としてはどうか。また、「理念を追求」は表現がかたいので、「より充実させる」として、子どもたちのためにあるというイメージが出るようにする。その次の行にある「通常の学級」は、「通常の学級における特別支援教育」と書くと、具体的で明確にな

る。さらに、「通級による指導、特別支援学級、特別支援学校などの連続性のある」は、連続性よりも、まず充実させるということを書くといいのではないか。

また、その行の最後に「教員への支援」とあるが、例えば武蔵野市の特別支援学級には、制度上、資格のある教員が入るようにはなっていないと聞くと、一般の教員が入るために、子どものニーズになかなか対応できていないと聞く。したがって、ここは「普通級も含め特別支援教育にかかわる教員の資質の向上」あるいは「研修の充実」等、教員の質を高めることを書いてはどうか。

また、基本施策5の(1)「教育力の向上をもたらす教職員の働き方の追求」に「特別支援教育における教員の能力向上を含め」という一文を入れて強調していただきたい。

【B委員】 生涯学習と学校教育の連携に関する記載については検討させていただく。

【副委員長】 学校運営に関する住民協力については、委員会でも議論がなされ、やるべきだとなった矢先に川崎市でスクールバスを待つ児童への通り魔事件が起きた。目指す方向性は皆さんと同じだと思われるが、セキュリティ問題との兼ね合いも踏まえて、積極的に考えたい。

インクルーシブ教育についての具体的なご提案についても、検討する。ただ、「理念を追求」については、委員会でも「理念」がかたいのではないかと、しかし掲げておくべきだという議論を経て記載している。インクルーシブ教育を全てユニバーサルに、みんな同じところという理念は、忘れてはならない。ただ、現実的にどうフィックスするかというときには様々な問題が出てくるということも踏まえて、現在の計画案としてまとめている。

教員への支援の部分も、全く同じことを考えて入れた。より積極的に書くことについて、策定委員会全体で議論する。

【市民H】 保育の量については、武蔵野市は随分力を入れて、一定の成果が上がったと思う。ただ、質が追いついていない。民間の新設保育園では、保育士がすぐやめてしまう。園長が辞めてしまい、募集しているところもある。働く親は増え続けており、保育園を選べない状況にある。保育士は未来の人間を育てる人という意味で、専門性の高い職業だ。武蔵野市は、どういう保育士を育て、配置していくのか。民間も含めたシステムをつくっていただきたい。

また、未就学児がいる等の様々な事情で、市の活動になかなか関われない人たちがいる。市に関わるきっかけが無く、大変な状況にあるということ

誰に言えばいいかわからない人たちも大勢いる。そういうときに大きな役割を果たすのが父母会だが、今、新設保育園は父母会を義務づけていないうえに、面倒なことをわざわざ引き受けたり、立ち上げる力のある人もいないため、園長募集のような事態になって初めて大慌てをすることになる。声を吸い上げる仕組みが課題であるとどこかに書いてほしい。

病児保育について。母親は、子どもが熱を出したという連絡を受けると、すぐにお迎えに行き、病院に連れていかなければならない。親族に頼れない母親は、どうしても片手間の仕事しかできないことになる。働く母親にかわって病児保育の資格を持つ人が迎えに行き、病児保育施設に預けて、親の帰りを待つという仕組みをつくっている市は、武蔵野市以外に幾つかある。そういうところを参考にして、うまく推進して行ってほしい。私も、私にできることはしていきたい。

【副委員長】 保育園は大分増えたが、一方で足りていないという現実もまだある。量の追求は続けつつ、質の確保と向上に努める。

保育園の数は、民間で増えていることを踏まえて、子ども・教育分野の基本施策2の(2)で「保育の実施責任のある基礎自治体の責務として」と書いたが、民間で提供する保育所もあわせて、巡回支援や指導、検査等により新旧を問わず質を上げていく。また、認証保育所を認可保育所に移行するなど、市は様々な形で支援することを考えている。ただ、保護者等の声を聞き届ける仕組みは、やはり足りていないので、策定委員会で議論し、子どもプラン等の担当部署にも伝える。

病児保育は、今回初めて計画案に入れた。ただ、病児保育は現実的には使い勝手の悪い部分があるので、より使いやすくしていくために、他自治体の取り組みも参考にしつつ、より積極的な市の実践に向けてさらに議論していく。

【委員長】 声を拾ってほしいというのは、保育だけではなく、様々な分野でも課題となっている。市民がそれぞれの課題を持っており、声を拾ってほしいと思っている。一方で、市には様々な相談の窓口があるが、縦割りになってしまっている。その間を取り持つ何かがないといけないと感じる。

【市民M】 保育園に入れなければ職場復帰できないという、この状況を何とかしてほしい。保育園を小中学校のように義務教育化できないか。この仕組みをつくるのは、国なのか、都なのか、市なのか。また、こういう思いをどこにぶつければいいのかわからない。働いている・いないにかかわらず、保育園に入れる仕組みがあればいいのだが。

【市民N】 それぞれのセクションについて専門の先生方が突っ込んだ議論をしているのはわかったが、誰がどこを担当したのかがわかるようにしてほしい。また、どういう形で議論が進んでいたのかがわかりにくい。

コミュニティの問題は、自治基本条例に関する話の中でも、どう位置づけたらいいかについて苦勞していたようだ。武蔵野市はコミュニティという概念を使ってまちづくりを始めたという振り返りも含めた議論がなされていた。コミュニティの現場で活躍されている方がいることはよくわかるが、世代交代の時期に来ていることや、コミュニティセンターの設備の老朽化など、今、コミュニティは見直しの時期に来ている。ロードマップのようなことを入れるといいのではないか。

シチズンシップ教育について。市民性をしっかり植えつけていきましょうという話になるのであれば、シチズンシップが発揮される現場や、地域の場において、そのような連携が必要になる。各セクションが縦割りにならない工夫をしながら進めてほしい。

【市民O】 平和・文化・市民生活分野の基本施策3の(1)「安全安心なまちづくり」にホワイトイーグル、市民安全パトロール隊、防犯協会が書かれている。私は、パトロール活動を見て、治安のいいところであることを実感した。ただ、通学バスの子もたちが襲われるなど、物騒な事件があったばかりでもあり、悪意ある人が起こす事件から子どもも大人もどう守っていいのか、心配になる。

【市民F】 インクルーシブ教育システムについてを前提としているということと、将来的なインクルーシブ教育を見据えて具体策を検討するといった、もう少し踏み込んだ言葉を書いてほしい。「理念を追求します」という言葉だけでは、教育計画のほうも「追求します」という言葉で終わって、特別支援教育についての検討がなされないことになってしまう。

【市民E】 特別支援教育、インクルーシブ教育について、武蔵野市は人手についてはとても弱く感じる。不足しているところに、人をつけることはできないか。通いやすい環境も大事だ。中学校は、知的障害の学級が1校しかない。また、東京都の政策により、新規採用教員の初異動が特別支援教育や巡回指導に割り当てられ、教員は経験不足に悩んでいる。

平和・文化・市民生活分野の基本施策1の(1)「平和施策の推進」に、

中島飛行機武蔵製作所や武蔵野市平和の日、ふるさと歴史館の利活用が入っているのが非常にいい。今回読みやすくつくられているのは、職員の頑張りもあると思う。職員が市民のことに聞く耳を持てる環境をつくるためにも、自治基本条例や行・財政分野の部分が大事だと感じた。

【市民J】 平和・文化・市民生活分野の基本施策4「地域社会と市民活動の活性化」のリード文には「本市では、(中略)コミュニティセンターを中心とした市民による自主的なコミュニティづくりが進められてきた」とある。「きた」では過去完了のようにも受け取れるので、「きている」、「現在進行形である」という表現が望ましい。

「また、防犯・防災」以降の羅列には、「地域の教育力」といった言葉、環境のことも含まれると思うので、羅列の順番を整理し、系統立ててほしい。地域フォーラムは、(1)の「市民同士の語らいや連携による豊かな地域社会」に含まれているが、ここでは多くの成果を積み上げてきた中の1つという位置づけだ。リード文の羅列に入れたほうがいい。

(1)にはコミュニティ評価委員会のことが書かれている。コミュニティ評価委員会は、8月に評価をする。評価委員会の具体的な方向性が出たら、現在進行形のものとして、入れられる範囲内で入れてほしい。

【C委員】 地域の方々の意見を伺っていて、はっとさせられることが何度もあった。

まちづくりに関しては、委員全員でかなり議論したつもりだが、武蔵境のパチンコ店の問題やラブホテルの看板に関する議論については全く抜け落ちていた。都市基盤分野の基本施策6「活力とにぎわいのある駅周辺のまちづくり」の3行の後に「また、質の高い景観や、地域に愛される商業地域のあり方について、地域の意見を尊重する仕組みづくりや制度の確立を目指す」と書き加えることを提案したい。

【市民N】 まちづくりには、民間業者側の立ち位置もある。パチンコ店を考えているのは、土地所有者ではなく、事業の運営主体だ。吉祥寺には吉祥寺なりの、中央には中央なりの枠組み、土地の実情に合った形がある。前向きに進めるための言葉と落としどころを慎重に見きわめてほしい。

【副委員長】 保育園の義務教育化について。市内には、幼稚園を志向する方も多いことから、保育園、幼稚園を問わず質の高さを前提に、積極的に書

いた。私も、保育園を義務教育化したほうがいいと思うが、義務教育化には、国の制度自体を変えていく必要がある。

【委員長】 言い足りないこと等は書面でお出しいただきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、境地区の圏域別意見交換会を閉じた。

以 上